

# コスチュームデザイナー ひびのこづえ先生から ものづくりの真髓を学びました。

【研修内容】 テーマ「コスチューム」

2月25日(木) 9:30~12:30 ものつくりの考え方、発想、作る面白さと魅力、ひびのこづえ 作品紹介

13:30~16:30 ワークショップ ブローチ作り

【目的】・デザイナーの作品を見ることで、テキスタイルやシルエット、装飾等について今後の作品製作の参考の一助とする。

・ワークショップを通して、ものづくりの魅力を感じ、アイテム開発に向けて意欲を高める。

【講師】 ひびのこづえ コスチュームデザイナー

ETV:「にほんごであそぼ」舞台・衣装製作、CMの衣装デザイン等

【対象】 服飾デザイン科2年生 40人

## 講義

ひびのこづえ氏が手掛けた、缶コーヒーや野菜ジュース、「にほんごであそぼ」などで使用した衣装やデザイン画を紹介していただいた。同じ衣装でも着る人や場所が違っていると印象も変わること教えていただいた。生徒には、ものづくりの先輩として、

「作った服がどう生かさせるか考えること」

「着る人の魅力を引き出すことが大切」「飾っておくだけの服は寂しい」という、今後の服作りの大切なポイントを学ぶことができました。



< 講義の様子 >

## ワークショップ

自然界の生物をテーマに、生物の特徴を理解し、デザイン画を描き、布と糸を使って忠実に再現するワークショップに取り組んだ。先生の的確なアドバイスを聞きながら、作品製作に意欲を高めた。



## 評価会 (3月7日実施)

作成したブローチをつけ、ワークショップの振り返りをした。クラスメイトから評価、コメントをもらい、作品の振り返りをした。



## 研修を終えて

・「服は人が着て、動いて、初めて意味がある」その言葉に、衝撃を覚えた。服そのものだけでは、抜け殻しかなく、着用すると、人も服も美しく輝くことが最も重要だと感じた。今後は、着る人のことをイメージし、動きも考えたデザインをしたいと思った。

・自分がデザインしたものを忠実に、再現する難しさを感じた。一つ一つのデザインに責任をもち、作品づくりをしていきたい。また、満足感や達成感を得るためには、妥協は決して許されないと改めて感じた。